

IV-47 街路景観からみた地区景観評価に関する基礎研究

早稲田大学 学生員 崔 載永

早稲田大学 正 員 中川 義英

早稲田大学 正 員 森本 章倫

1. はじめに

今までの都市景観の整備や既存研究をみると、都市景観や街路景観を対象とした研究が多く、地区を対象としたものは特にみられない。しかし、都市において点的な拠点整備や線的な街路の整備だけでなく、地域固有の景観整備や地区の面的なバランスを考えていくことが必要である。

そこで、本研究では地区を面的な広がりを持った空間として捉えて、一般的な街路景観と比較することで地区の景観評価について検討する。

2. 地区景観の定義

(1) 景観レベルと地区景観

空間領域からみた場合、その地区景観の概念は下の図1ようになる。地区のイメージが漠然として全体を取り込み、その中に空間のまとまりとしての街割が存在し、街割りは街路空間の組み合わせによって成り立っている。また、線的な街路空間に対して、面的な地区景観と考えることができる。本研究では地区景観を面的に広がる地区空間の視覚的な要素と定義する。

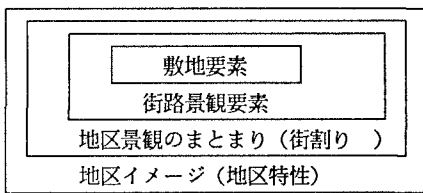


図-1 地区景観の概念

3. 街路景観評価

3-1 対象地区の選定とアンケートの概要

本研究は、地区景観を街路ネットワークから把握しようとするため、計画的に街路整備の行われた良好な住宅地として知られる田園調布（東京都の大田区と世田谷区にまたがる）を対象地区とした。

地区景観評価においては、面的な空間であるため視点が無数に存在し、評価対象も変化する。そこで、連続的な景観評価が可能であり、さらに動画的な評価に

適したVTR評価を行った。

また、VTR評価の有効性を調べるためにスライド評価を行い、スライドの提示順の違いにより発生する評価誤差を検証した。F検定の結果、有意水準1%でスライド提示順による誤差はないことが証明され、VTR評価の有効性が示された。

3-2 評価結果の集計

a) ポイント評価

図2を参考にし、ポイント評価の大きく変化する地点において、その要因を調べると次のことがわかった。

- ①「見通し距離」が長いほど、評価が高い傾向がある。
- ②街路進行方向正面に視界を遮る構造物の善し悪しが評価値に大きく影響する。
- ③高台で眺望がきくところでは高い評価を示す。
- ④一般に街路樹・庭木などの緑は高い評価を示す。
- ⑤道幅が狭く、壁などの左右の構造物が高く迫っていると評価値は低くなる。

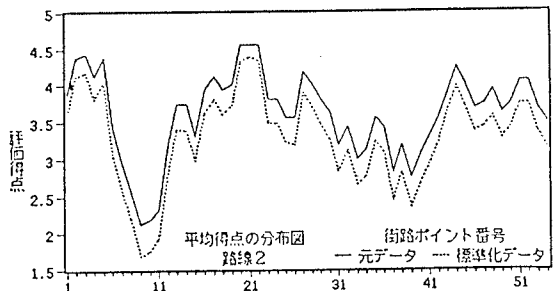
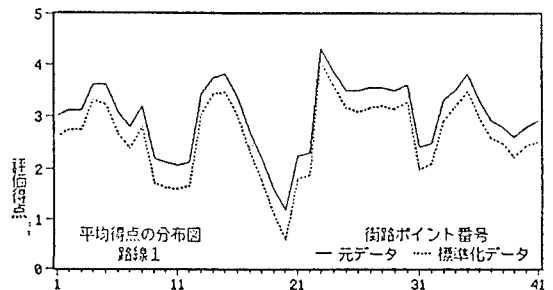


図-2 ポイント評価の分布図

4. 街路景観と地区景観

4-1 CADによる表示法

CADシステムによって一度作成された図面は、設計者が、必要に応じて任意に視点などを変えて対象地区を表示できる。図3は、対象地区を任意の視点から眺めた画面をCADを用いて作成し、ポイント評価値をその上にプロットしたものである。これによって、街路景観評価の分布パターンが検討できる。

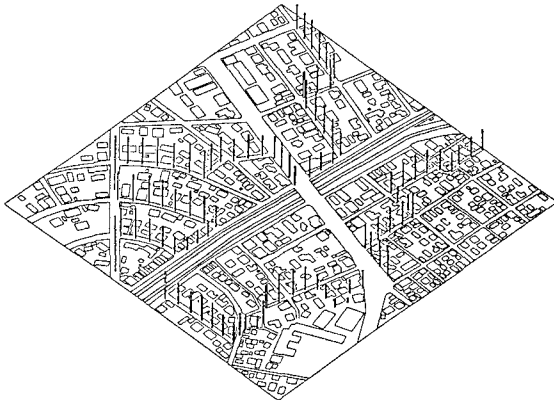


図-3 街路景観の評価値と地区空間

4-2 街路のイメージ設定

(1) イメージ要因の抽出

街路景観の評価項目を設定する際に取り上げられるのは、街路の主な属性である交通機能としての「通過性」と公共空間としての「開放性」、そして従属機能としての居住者の「生活性」と緩衝帯としての街路樹等に関連する「自然環境」の項目が重要となってくる。

ここでは各区間のイメージ評価を行い、これを説明変数に、区間評価を目的変数にして重回帰分析を行う。これによって得られた結果を表2に示す。

表-2 重回帰分析の結果

各区間の重回帰分析の結果

区間 番号	標準回 係数				重相関 係数 R
	通過性 a 1	開放性 a 2	生活感 a 3	自 然 a 4	
1	0.089	-0.014	0.385*	-0.023	0.417
2	0.005	0.279	0.106	0.101	0.348
3	0.037	0.646*	0.541*	-0.033	0.863
4	-0.415	0.519	0.565*	0.073	0.645
5	0.109	0.463*	-0.128	0.345	0.709

* 有意水準10%以下

4-3 地区景観のイメージ表示

街路のイメージを対象地区の図面に表すと図4のようになる。図の数字は区間評価得点の標準化した値、P, O, C……は区間のイメージを表したものである。

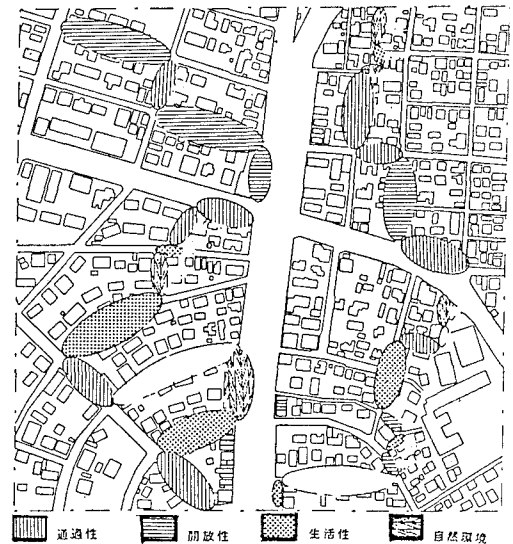


図-4 街路イメージ評価と地区景観

これをみると、街路イメージがその街路の特性と非常に密接な関係があることがわかる。幹線街路になるほど通過性が強く、裏路地のような街路は生活感のイメージが強くなっている。（表3参照）

表-3 街路イメージと街路特性

分類	特徴項目
1 大通り	通過性
2 繁華街	（対象地区に含まれない）
3 表通り	開放性
4 裏通り	生活感
5 露地・構丁	

以上の結果をもとに、システムの空間形成が行えるように、地区景観の一つ評価方法を提案する。

5. おわりに

地区内の街路ネットワークは異なる格の街路により構成され、一つのまとまった地区景観を形成する重要な要素である。本研究では、街路の格と街路イメージとの関係が非常に密接であることがわかった。また、整然とした階層構造により整備された街路ネットワークは地区景観に良い影響を与えられると思われる。